備前市事務事業評価シート

（平成22年度事業）

事業の概要

事業開始年度	平成７年～	根拠法令・例規等	文化財保護法
総合計画 大項目 基本目標	03 地域文化と人が輝くまちづくり	問合先 担当課（室）	生涯学習課
中項目 基本施策	03 歴史と文化の輝くまちづくり	職・氏名	係長　石井啓
小項目 施策	02 文化財の保存と活用	電話	０８６９－６４－１８４１
事務事業名	01 文化財保護事業	このシート作成に要した時間	4.0 時間

事業の目的

対象（誰・何に対して）	文化財や地域文化などに興味がある人全般
目的（何のために）	文化財や地域の文化遺産を保護するとともにその活用を図り、地域文化の向上を目的とする。また、六古窯のひとつと言われながら、調査・研究が遅れていると言われている備前焼研究の現状の中、備前焼の歴史について未解明なことを明らかにし、その活用をはかる。
事業の意図する成果（どのような状態にしたいのか）	備前市の文化財や地域の文化について多くの人に情報を提供することで、郷土の文化財の保護や活用について理解と興味を持ってもらい、後世にまで貴重な文化財を守っていく認識を深める。

事業の実績

目的を達成するため実施した事業

細事業名	事業の説明	優先度
文化財保護管理運営事業	指定文化財の保護・活用を目的とする。指定文化財の除草などの管理を委託し、文化財の保護に努める。文化財に対する問合わせや調査依頼に対応。	○
備前焼総合調査史跡整備事業	備前焼の歴史の解明、窯跡の保護・活用を目的として、窯跡群究明のための発掘調査、現地説明会、フォーラムの開催、調査成果のとりまとめなどを行う。	◎

決算額

事業費等		単位	平成20年度実績	平成21年度実績	平成22年度実績
事業費	直接事業費	千円	9,208	11,192	12,352
	必要人員 人件費	千円	0.98人 6,793	1.13人 7,586	0.81人 6,410
	事業費計	千円	16,001	18,778	18,762
財源	国県支出金	千円	4,278	7,237	9,151
	受益者負担	千円			
	繰入金	千円			
	市債	千円			
	その他（　）	千円			
	一般財源	千円	11,723	11,541	9,611
受益者負担比率		%	－	－	－

結果指標名		単位	平成19年度実績	平成20年度実績	平成21年度実績
結果指標	指定文化財等対応件数	説明	指定文化財等対応件数		
	結果指標量	件	132	137	145
	対前年比	%		103.8%	105.8%
	活動コスト	円	16,001,000	18,778,000	18,762,000
	単位当たりコスト	円	121,220	137,066	129,393

事業の意図する成果とつながる成果指標を設定

事業の目的、対象、内容を考えながら妥当性を評価

事業費や受益者負担比率、単位当たりコストに留意しながら効率性を評価

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性を評価

事業の成果

成果指標名	年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度目標値
指定文化財等対応件数	目標値（A）	125	130	140	150
	実績値（B）	132	137	145	到達目標値
	達成率（B/A）	105.60%	105.38%	103.57%	140

成果指標設定の考え方・式や説明

地域内にある文化財や文化遺産の保存活用が目的なので、調査・管理などへの対応件数を成果指標とした。

事務事業の評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

妥当性の評価

- ☑ 市が実施するよう法令で義務づけられている
- ☐ 法令で義務づけられてないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす
- ☐ 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない
- ☐ 事業の内容が一部の受益者に偏っている
- ☐ 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている
- ☑ 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である
- ☐ 事業開始当初の目的から変化してきている
- ☐ 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている
- ☑ 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある
- ☑ 市民・団体等から要望・要請が強い

妥当性評価 <A～E>：**B**

効率性の評価

- ☑ 単位当たりコストは前年度と比較して改善している
- ☐ 実施方法（派遣・委託含）を見直すことでコストを下げる余地がある
- ☐ 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある
- ☑ コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい
- ☐ 受益者負担率は適正である
- ☐ 受益者負担率を見直す余地がある
- ☑ サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない
- ☐ 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある
- ☐ 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている

効率性評価 <A～E>：**B**

有効性の評価

- ☑ 成果指標の設定は適切である
- ☐ 成果指標の到達目標値は達成できそうである
- ☑ 成果指標達成率は前年度と比較して向上している
- ☐ 成果指標達成率は80%未満となっている
- ☐ 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない
- ☐ 法定事務 ・ 内部管理事務　であり成果は求めにくい
- ☑ 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している
- ☐ 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している

有効性評価 <A～E>：**B**

進行年度（H23年度）の改革改善内容

状況	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
			○				

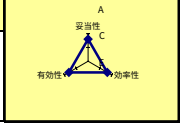
説明：今後文化財関連事業については、地域の文化財、まちづくりの資源として文化施設の役割などとともに総合的に検討していく必要がある。
備前焼総合調査事業は、発掘調査などの調査成果をまとめ、わかりやすい形で情報発信するとともに、フォーラムを開催し市内外の多くの人に備前焼についての興味や理解を得るよう努める。

総合評価

５段階評価（A～E）のランク基準　A：高い　B：やや高い　C：普通　D：やや低い　E：低い

文化財を保護・活用し、地域の文化遺産として考えていく視点が必要になりつつある現況において、地域資源の的確な把握とそれを地域に住む人々がどう生かしたいか十分に把握していく必要がある。

評価区分 <A～E>：**B**



平成23年度の方向性 及び 取組目標

方向性	拡充	現状継続	見直し	縮小	整理統合	休止	廃止・完了
	○						

取組目標：平成23年から2か年かけて策定する「備前市歴史文化基本構想」において、文化財や地域の文化遺産をその環境も含めて総合的に考えていく。そのためにどのような文化施設が適切なのか、現在ある文化施設の利用状況などのデータも検討する。さらにこの構想を進めるための組織についても検討していく。